

言葉がけ一行詩!

家庭部門

(家族へのメッセージ)

審査員(青少年育成推進委員 教育会生徒指導部員)

あつたか大賞

ままとゆきなへ

まま、がんばって ゆきなをうんでね。ゆきながんばってできてほしいな。はやく ゆきなを だっこしてみたいなあ。

(小1 匿名希望)

あつたか大賞

お父さん お母さんへ

二人はすごい仲良しだよ。二人が笑っていると家族みんなも笑顔になるよ。これからもずっと仲良しの夫婦でいてね。

(小6 北原乃亜)

あつたか賞

お母さんへ

うんどうかいの前の日、まけたらどうしようかかんがえてこわかった。でもべんどうの時、べんどうに「ガンバ！」って書いてあったからがんばれた。心がげんぜんこわくなくなった。

(小3 田口心春)

あつたか賞

お母さんへ

私が夜遅くまで勉強していると、自分の仕事はもう終わって寝れるのにさりげなく隣に座って待ってくれるお母さん。近くにいるだけでがんばらなきゃと思います。そのさりげないやさしさが嬉しいです。ありがとうございます。

(中3 匿名)

あつたか賞

息子へ

4月から仕事を始めて、忙しくほとんど構ってあげられないのに、母の日の手紙には、「お母さんありがとう。おうえんしているよ。」のひと言。涙でその字がかすんで見えました。

(保育園児保護者)

あつたか賞

妻へ

いつもありがとう。なかなか口に出して言いたいことはない。でも常に心に思っている言葉。

(保育園児保護者)

お母さんへ
いつもお仕事ががんばっているお母さん。いつも学校の話しを聞いてくれてうれいよ。だから、お母さんもお仕事での楽しい事やいやな事を言ってもいいんだよ。何でも聞いてあげるから。

(小3 北原柊亜)

村から離れた兄へ

今まで小さいときが一緒に家にいるときは、口げんかが多かったけど、柔道の時には、いろいろ教えてくれたり私が泣くほどおこってくれたりしてくれてありがとう。忘れたくないほど悲しかったです。ありがとうございます。

(小5 吉貫 紅)

ばあちゃんへ
「ごちそうさまー」「ただいまー」
「いってきませー」「毎日言っている。でも言わないとなせかむすむすする。言った方が気分が晴れる。ばあちゃんの方がかな?」

(小6 ペンネームA)

息子達へ
毎日毎日怒ってはかりの母ですが、あなたたちのおかげで毎日笑い、ほっこりし、日々が楽しめます。こんなお母さんの子どもに生まれてきてくれてありがとう。

(保護者)

娘へ
こっそりカバンの中へ「ママたいすきだよ」の手紙を入れてくれるあなた。たくさんたまっていくあなたからの手紙...お母さんの宝物です。

(保護者)

お母さんへ
いつも学校に行くときえがおでおへって来てくれてありがとう。お母さんのえがおで今日も一日ががんばるぞというやる気が出ます。

(小3 高橋 碧)

お父さんへ
お父さんとはいつもケンカばかりしています。いつも否定ばかりです。でも、お父さんが仕事を頑張っていることは否定しません。いつもありがとう。

(中1 山田章太)

あこがれの父へ
「毎日仕事おつかれさま」伝えたくても伝えられない。直接伝えるんじゃないやなくて仕事出来る限り手伝うから。これからもあこがれの父として大好きな父でいてね。

(中1 匿名)

お父さんへ
「来な〜ていよ」と言っても、いつも見に来てくれてありがとう。本当はす〜くうれいよ。

(中1 脇坂望乃彩)

お父さんへ
最近高校のことでケンカすることが多くなつたね。私は正直お父さんにイライラすることもあるけど、私のために陰で高校のことを調べてくれていることを知っています。私も絶対に高校に受かって家族全員で喜ぶようにしようね。

(中3 大野日菜梨)

父母へ
僕のために「勉強しろ」と言っ父、母。僕のために進路を一緒に考える父母。僕のためにこんなに頑張っている。そのことを思うと...心から感謝します。

(中3 滝 愛斗夢)

娘へ
私がバテたりメゲたりしていると必ず頭をナデナデしてくれる。言葉で伝えることは不器用だけど、そのポツタリした温かい手は何よりお母さんの心をほほえてくれるよ。ありがとうございます。

(保護者)

息子・娘へ
「おは〜い」といってきませす」「ただいま」「私たちはあ〜さつ〜つ聞けば、君たちが元気いっばいか悩んでいるか顔を見なくてもす〜く分かるよ。だっってお父さんとお母さんは大切な君たちを誰よりもす〜く見守っているから。」

孫達へ
「パパ大好き」その言葉で元気になれる。いつもでも言い続けてね。(祖母)

(祖母)

平成27年度 白川村

「あったかい」

地域部門

（地域から子ども・子どもから地域へ）

審査員（白川村社会教育委員）

あったか大賞

団子屋のおじちゃん、おばちゃんへ
おばちゃんが亡くなった時「おばちゃんに優しくしてくれてありがとう」っておじちゃんに言ったけど、僕が小さい時から優しく見守ってくれたのは、2人です。僕がここまで大きく成長できたのは、2人の優しさのおかげです。
（中3 北原直人）

あったか大賞

P.T.A会長さんへ
我がP.T.A会長。かっこいいです。仕事があるのに私たちの活動を盛り上げる屋台を作ってくださいました。地元のイベント「ウルトラマラソン」に出場し、50km完走されました。かっこいいです。私も負けずに学校と村を盛り上げていきます。
（中3 山田真帆）

あったか賞

地域の方へ
毎朝、私たちにあったかい気持ちを分けてくれる地域の方々。そんな地域の方がいる白川村に生まれてよかったです。ありがとうございます。
（小6 北原乃亜）

あったか賞

近所のおばーちゃんへ
いつも帰ってくる時間になると、戸をあけてものすごくかわいい笑顔で「おかえり、楽しかった？」と話しかけてくださって、うれしいです。明日もその次の日もずっとその笑顔、楽しみにしています。
（中1 ペンネーム 三女）

あったか賞

民謡指導者の方へ
白川村の伝統である民謡。3年間習ってきましたが、大切にしないとけないと毎年思います。そう思えるのは、直接同じ白川村に住んでいる人から学べるからだと思います。私に今できることは、本番に一生懸命踊ることです。日々の練習を大切にして、本番は全力で踊ります。
（中3 大杉穂乃佳）

あったか賞

地域の子も私たちへ
一度お話しすると次の日からもうお友だち。笑顔で手を振ってくれる姿に心があたたかくなります。みんなみんな良い子達です。
（地域の方）

バスのおんてんしゅさんへ
わたしが朝「おはようございます。」と言つと、「おはよう。」と明るくかえしてくれてありがとう。とってもうれしくなります。
（小2 小川明音）

いろいろのおばあさんへ
いろいろのおばあさんは、いつも花に水をやりながらあいさつをしてくれます。花が大切でもわたしには、おばあさんのあいさつが大切です。
（小3 ペンネーム あやっぺ）

たけ田さんへ
雨がふってきた時、やさしく「家の中に入りな、かせひくよ。」と言つてくれてありがとう。たけ田さんの赤ちゃんにも、わたしが今度おかしするね。
（小4 匿名希望）

郵便局の兄ちゃんへ
いつも会うたびに手をふつてくれてありがとう。私はとっても元気が出ます。
（小5 木下楓）

石田さんへ
毎朝私たちが前を通ると、まどをあけてあいさつをしてくださるのでとても気持ちよく元気に朝を始めることができます。ありがとうございます。
（小5 匿名希望）

中谷ムムのお姉ちゃん、お兄ちゃんへ
ほんと毎日、私たちと遊んでくれてありがとう。いつも仕事をがんばっているね。これからもがんばってね。また遊んでね！
（小6 大塚光稀）

いざなみのたんごやのおいちゃんへ
一年生のころからずっと通って来たたんごやの道。今は、おばあちゃんはいないけど、ずっとかわらない笑顔で「おかえり」と言ってくれるおじちゃん。いつもいいお礼がたまたまお客さんでいきわっていても必ず「おかえり」と言ってくれます。どんな時でも元気がです。ありがとうございます。
（中1 小洞明菜）

さとうのおばちゃんへ
部活に行く時や登校するときほくほく話をしてくれたり、あいさつをしてくれたりしてありがとう。がんばろうという気持ちになります。
（中1 大谷勇騎）

大洞のおじいちゃんへ
学校に行くときに声をかけたら、いつも、「おはよう。」と声をかけてくれて、僕の心が温かくなります。
（小6 滝愛友夢）

夏休みラジオ体操に来ていた人へ
カードにはんこをおす時、「いつもありがとう」という言葉をかけてくれてありがとう。ありがとうございます。とてもうれしいです。
（中1 山下美空）

地域のおじさんへ
下校で会つて「おかえり〜」、その後遊びに行くとき会つて「また会つたな〜いそがしいね〜」って言つてくれました。いつ会つても優しい笑顔で話しかけてくれてうれしいです。おじさんに会つたんだか笑顔になるなあ。
（中2 ペンネーム RRさん）

大工のおじちゃんへ
おじちゃんの座右の銘は「安全第一」！おじちゃん見えていない日はケガしたかかって不安になるよ。だから安全第一で体に気をつけてね。
（中2 ペンネーム Akane Sakurai）

平瀬地区の方々へ
どんな時も笑顔で話しかけてくれたり、あいさつしてくれたりするので心が温かくなります。平瀬の方々の元気な姿が大好きです。そんな元気な姿をこれからも見せてください。
（中3 大野日菜梨）

大切な子どもたちへ
頑張っている子どもたち。大切な子どもたちのために、今、大人が変わんなきゃね。守らなきゃね。未来の白川郷につなぐために…。
（地域の方）

平瀬温泉白弓スキー場の 安全祈願祭が行われました!

平成27年12月21日、平瀬温泉白弓スキー場で安全祈願祭を行い本年度も来場者の皆さんが事故なく安全に滑れるよう祈願しました。今年は雪不足のため、オープンが遅れていますが、多くの方にご利用していただき、楽しんでいただきたいと思います。



また、昨年12月に白川郷スキークラブの皆さんが、ボランティアでこれまで滑走禁止となっていた旧第2リフト乗り場の窪地を土砂で埋め、滑走できるよう整備していただきました。その功績に成原村長より野村会長へ感謝状が贈呈されました。スキークラブ員の皆様ありがとうございました。

診療所 だより

伊左次 悟 先生



白川村の死亡の現状（女性編）

あけましておめでとうございます。先月号に引き続き村の死亡の現状です。過去10年間（平成17～26年）に203人（男性112名、女性91名）の方がお亡くなりになっています。主な死亡原因は「脳卒中」、「癌」、「心臓病」、「肺炎」の順で、これら4大疾患が全体の6割を占めています（10人のうち6人はこの4つの病気のどれかで亡くなっている）。

今回は女性の死亡原因についてです。右の表に、その疾病で亡くなった人数と（ ）内の標準化死亡比（年齢調整した全国に対する比）を示してあります。女性でも男性と同様に脳卒中が1番多い死因です。しかし

女性ではどの病気についても死亡数が少なく標準化死亡比も低いのが特徴です。村の長寿番付をみると圧倒的に女性で長生きをされている方が多いこともうなづけます。しかし女性が長生きだから良いことばかりかというところでもありません。認知症や整形疾患（骨折含む）で障害を抱えて介護保険を利用されている方が男性に比べ圧倒的に多いのです。介護保険の利用の原因となる障害（疾病）の現状については次号で紹介します。

白川村 女性死因

1位	脳血管疾患	17 (1.44)
2位	悪性新生物	16 (0.67)
3位	心疾患	15 (0.82)
4位	肺炎	7 (0.69)
5位	老衰	6 (0.85)
6位	腎不全	4 (1.74)
6位	不慮の事故	4 (1.35)
8位	糖尿病	3 (2.50)
8位	自殺	3 (2.54)

かやっこ劇団初舞台!

&まだまだ参加者募集中!



12月13日の村民文化祭で、今まで練習してきた活動の成果を初披露しました。

本番の幕が開く前に、声だし・気合入れをするメンバーのきらきらした表情を見ていて、短い期間での子供たち一人一人の頑張りを楽しみ感じました。みなさんの温かいご声援がとても嬉しかったです。ありがとうございました。

1月~3月にかけても、引き続きメンバーの募集を行います! かやっこ劇団はダンスや演技が上手になることを目標とした活動ではなく、一つのこと到大勢で全力で本気になって取り組む中で、地域のリーダーとなる力がついていくこと、白川村での楽しい幸せな経験がたくさんできることを目的に活動しています。

楽しそうかな?と少しでも思ったら、ぜひ気軽に稽古に遊びにきてください (^ ^)

募集対象：小学校4年生~高校3年生
稽古日程：毎週土日9時~12時 / 13時~17時
稽古場所：平瀬カルチャーセンター
道の駅白川郷 文化交流施設
問い合わせ：協力隊 前盛 (080-1547-5751)



消防署だより

平成二十七年年度 全国統一防火標語
『無防備な 心に火災が かくれんぼ』



【ひとり暮らし高齢者宅 防火訪問の実施について】

二月一日から十二月十三日の十三日間、秋の火災予防運動に伴い、ひとり暮らしの高齢者宅を対象に防火訪問を実施しました。

防火訪問では、健康状態及び住宅用火災警報器の設置状況を確認するとともに、冬季に入り火気の使用が増えるため、暖房器具を取扱う際の注意点を伝えました。

【白川村消防団 救命講習実施について】

毎年冬季に白川村消防団の方を対象に救命講習を開催しております。

今年度は、本部分団、教育班幹部、南部分団の約七十名の方が救命講習を受講されます。

消防団員以外でも救命講習を受講することができ、白川出張所までお問合せください。



【文化財防火デーに伴う 合同訓練の実施について】

平成二十八年一月二十六日に荻町地内の国指定文化財「和田家」で文化財防火デーに伴う合同訓練を実施します。

当日は、文化財関係者、白川村消防団、白川村役場、鳩谷駐在所、白川出張所より約四十名が参加します。

訓練当日はサイレンの吹鳴や放水訓練等で付近住民の方にご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力をよろしくお願い致します。

12月中の火災と救急 火災 0件 救急 3件 救助 0件

白川村消防団協力事業所表示制度について

制度の概要

事業所の消防団活動への協力を通じ、地域防災体制の一層の充実が図られることを目的として、村長が消防団に協力している事業所等を「消防団協力事業所」として認定し、表示証を交付する制度です。

また、この制度は岐阜県が平成28年4月1日から開始する「岐阜県消防団協力事業所支援減税制度」において、事業所等が支援減税制度の認定を受けるための一つの要件となっています。



消防団協力事業所表示証

制度の認定基準

次のいずれかに該当していることが条件となります。

- 1 従業員が消防団に1人以上入団している
- 2 従業員の消防団活動に積極的に配慮している
- 3 災害時に事業所の資機材等を消防団に提供するなど協力をしている
- 4 その他消防団活動に協力することにより、地域の消防防災体制の充実強化に寄与しているなど、村長が特に優良と認める

消防団協力事業所表示証の表示有効期限

表示証の有効期限は、原則として認定の日から2年（再申請で2年更新）

認定を受けようとする事業所等は、指定の申請書により提出してください。申請書類の様式は、白川村のホームページからダウンロードすることができます。

●お問い合わせ先 総務課 庶務係 05769-6-1311

消防団協力事業所支援減税制度 ～平成28年4月1日から始まります～

制度の概要

岐阜県内において平成28年4月1日から「消防団協力事業所支援減税制度」が始まります。この制度は、県内の消防団活動に協力する事業所等を支援する制度で、岐阜県が行う事業税の減税制度です。

対象税目	法人事業税・個人事業税
対 象	次の要件を全て満たす法人(資本金又は出資金が1億円以下)又は個人
認定要件	1. <u>岐阜県内に事業所等を有し、すべての事業所等が「消防団協力事業所表示制度」による市町村長の認定を受けていること。</u> 2. 岐阜県内の事業所等の労働者等に消防団員が1人以上いること。 3. 消防団活動に配慮した規定（就業規則等）を整備していること。
控除要件	事業税額の2分の1に相当する額を控除（100万円を限度）
適用期間	法人事業税 … 平成28年4月1日～平成30年3月31日までの間に終了する各事業年度 個人事業税 … 平成29年度～30年度（平成28、29年の所得に対して課税）

●お問い合わせ先 岐阜県危機管理部 消防課 消防係 058-272-1122

12月16日(水) 19:00~

12月16日総合文化交流施設において、第8回柿じいの白川遺産学セミナーを開催しました。今回はⅠ部：道路交通・通信の整備と商工業者の胎動、Ⅱ部：半返し論理について早稲田大学名誉教授 柿崎京一先生に解説して頂きましたのでご報告します。



Ⅰ部：道路交通・通信の整備と商工業者の胎動

明治期の白川街道は尾神から小白川まで凡そ38kmあり、庄川の左岸を縦走していた。その中には歩危や川越の難所があり、古くから人々の交通を妨げていた。こうした道路や橋梁の改修工事が長年にわたって白川村の財政を圧迫していた。白川村の代表的な歩危は、福島、平瀬、下田・内ヶ戸の3箇所、籠の渡し、刎木橋、引渡橋といった橋梁が10数カ所あった。その後針鉄釣橋の架設や電源開発による道路改修(通称100万円道路)により交通の便は良くなることとなる。

明治6(1873)年に河港道路修築規則が交付されたことにより、河川、道路に等級が定められた。本村では明治11年に白川街道・天生道が郡道に指定される。その後大正9(1920)年に白川街道が県道45号、天生峠が県道183号に指定され、第2次世界大戦後国道に格上げされることとなった。

白川村の自動車の初見は明治42(1909)年のことである。昭和3(1928)年にオートバイが初見され、大正15(1926)年以降乗合自動車の運行が始まり、昭和23(1948)年には鳩谷まで国鉄直営バスが運行されることとなる。

Ⅱ部：半返しの論理

今回は岐阜新聞のコラム欄に連載した記事から贈答慣行の「半返し」について学びました。

話は長男が小学校5、6年生当時のわが家のこの季節の会話である。頂戴した歳暮の小包を開けるのを傍らで凝視していた二男が中身を見た瞬間、「なんぼくらいするのかなあ」と長男と値踏みを始めた。「これはいかん」と内心動揺したが、平静を装って、「値段はわからん。この贈り物には相手の人の心が込められているから」と言ってみたものの、これまで親がこの手の会話を繰り返していたことに気づき、後味の悪い思いをしたものだ。

ところで、日常生活の中で市場を通さない物の交換の領域は広い。この贈与の研究に先べんをつけたM・モースは名著『贈与論』(1925年)の中で、贈与は単なる経済的交換ではなく、社会的・宗教的・道徳的な意義を付帯した全体的給付システムとして解釈するべき点を明らかにした。

モースに始まる贈与の研究は、その後諸科学の分野に発展し、今日に至っている。ここでは贈与における人間関係に注目したE・リーチの所論『社会人類学』(1928年)についていちべつしてみよう。

リーチによると、贈り物の交換において、お返しの贈り物の支払いを延期する間、双方の間にいずれは均衡がとられるべきだ、という道徳的義務を暗黙のうちに了解しているので、その間の人間関係は持続する、というのである。

この点、日本人の「半返し」の慣行は、より巧緻な仕掛けである。双方にはときに世代を越えるなど、将来に及んで均衡することを暗黙に了解し、現実には終局のない贈答を繰り返すという論理が作用している。しかも贈答は「心ばかりのもの」なのである。実に意味深長な行為である。

皆さんはこの記事からどんなことを思い、考えますか？また日本に独自の包装紙、のし(熨斗)紙の意味についても学びました。皆さんはご存じですか？

次回告知

1月20日(水)

Ⅰ部：出稼ぎ・分出移動と高山「白川会」

Ⅱ部：社縁の論理について